

生きがいを持って働く社会参加で活力のある地域づくり

雲南市シルバー人材センターが設立されました

3月1日、チェリヴァホールで、社団法人雲南市シルバー人材センターの設立総会が開催されました。

シルバー人材センターは、高齢者の経験や知識を活かし、働く機会を提供する場として、これまで事業を展開してきましたが、合併に伴い統合・社団法人化することで、各種活動の効率化が図られ、事業の公益性、公共性を明確にできることから、このたび新たに設立されたものです。

総会では、これまで設立の準備にあたってきた石田進設立準備委員長が「現在、市内の60歳以上の高齢者人口は約16,600人で、これは全人口の約

雲南市シルバー人材センター役員

(敬称略・50音順、()内は出身)

理事長	石田 進 (木次町)
副理事長	鶴原 達夫 (大東町)
常務理事	菅田 貞夫 (木次町)
理事	宇都宮芳治 (木次町)
	小村 伸治 (木次町)
	佐々木國夫 (大東町)
	白築 庫敏 (掛合町)
	周藤 寛洲 (大東町)
	田部 光子 (木次町)
	深石 広正 (三刀屋町)
	深田 徳夫 (加茂町)
	古瀬 明 (三刀屋町)
	宮崎 節朗 (三刀屋町)
	渡部 伸一 (吉田町)
	内田 秋隆 (大東町)
	高尾 尚 (三刀屋町)



伝統文化の魅力を満喫

出雲神話と神楽フォーラム

多くの魅力がある郷土の神楽をぜひ後世へ伝えていきたい。また来年も訪れたい」と話していました。



2月20日、第18回出雲神話と神楽フォーラムが古代鉄歌謡館(大東町)で開催され、訪れた観客は神楽の競演に酔いしれました。

この日出演したのは、市内で出雲神楽の伝統を受け継ぐ社中7団体と地元元海潮中学校神楽クラブの生徒13人。神楽の優美で幽玄な舞いを堪能しようとは会場は立ち見が出るほど大満員となりました。

観衆のひとり「どことなくふるさとも感じる囃子や、発祥の地でもあり、なじみ深い演目など

UNNANSHI NEWS

雲南市 NEWS

教育改革を国民的議論に

スクールミーティング開催

2月16・17日、市教育委員会では、文部科学省と共催による「雲南市スクールミーティング」を開催しました。

これは、教育関係者や地域住民が実際に教育現場の取り組みを見ることが地域住民との直接的な対話をする事で、それを今後の教育施策に活かすため、文部科学省が全国300か所において行ったもの

です。市では、小・中学校の教職員をはじめ、保護者、地域住民を対象にした意見交換、給食の時間を利用した生徒との対話を2日間にわたって行いました。

意見交換会では、「総合的な学習の時間について、効果が現れ出している中での見直しは慌ただしいのではないか」、「もっと長期的視野に立った改革を」、「現在、子どもの学力が二極化してきている」などの意見が出されました。



これらの意見や質問に対し、文部科学省側からは「以前の知識詰込教育に戻るわけではない。生きる力を育んでいくという基本方針は変えないが、それに向かうための手段や方法を根本から見直していく」という見解が示されました。

市では、今後もこうした市民のみなさんと対話する機会を随時提供していきたいと考えています。

なお、今回のミーティングで出された主な意見は市ホームページにも掲載しています。

「島根県企業立地促進条例に基づく立地計画認定書」の交付と「工場等の立地に関する覚書」への調印



右から澄田信義県知事、株明和 園山徳道会長、株明和 園山泰司社長、影山喜文助役

2月18日、加茂町にある株明和(園山泰司社長)への「立地計画認定書」の交付と、株明和、雲南市、島根県の三者による「工場等の立地に関する覚書」の調印が島根県庁において行われました。

今回の交付は、パソコンや産業用インバーター*の組み立て加工を行っている同社が生産設備の増設を計画。島根県企業立地促進条例に基づく「立地計画認定申請書」を提出し、規定に適合するものと認められたものです。



※「インバーター」とは?

インバーターとは、一定の周波数を、必要とする周波数に無段階で変換する装置です。